

# 令和6年度 自己評価結果

令和7年7月

幼保連携型認定こども園 くだま保育園

## 1. 本園の理念・方針

- 理念 (1) くだま保育園では子どもの今（現在）と明日（将来）を見つめながら、「子どものために」を第一に考える教育・保育を実践する。  
(2) 子どもはだれでも豊かな可能性の芽をその内に秘め、自ら成長発達する力を備えていると考え、その可能性の芽を開花できるような教育・保育に努める。  
(3) 児童憲章の理念の基、「子どもの最善の利益」と「子どもの福祉の増進」に努める。  
(4) 子どもたちの健全育成を使命とし、地域社会の子育て支援の貢献にあたる。

- 方針 (1) 子どもの「喜びの笑顔」「うれしい笑顔」、大人の子どもへの「愛する笑顔」を大切に教育・保育を行う。  
(2) 子どもたちが生活する場所が「安心と信頼」、「発見と驚き」、「満足と喜び」あふれる楽しい遊びの場であるよう努める。  
(3) 「遊ぶこと」、「食べること」、「寝ること」は、子どもの心身の発達に重要で欠くことのできないものとして教育・保育にあたる。  
(4) 子どもが全身を、五感を使って能動的に活動できる環境作りに努める。  
(5) あいさつをする、身辺整理をする、自制心、感謝・奉仕の心を育む教育・保育をする。

## 2. 評価項目

- ① 「子どものために」を常に念頭に置きながら、子どもの援助者としてどんな環境（人的、物的）が必要で、不要なのかを目の前の子どもたちを観ながら実践する教育・保育を行う。そのためにも、保育教諭が自己研鑽を積みながら、子ども一人ひとりに応じた教育・保育が行えるよう、職員相互の共通理解や研修に積極的に取り組む。  
② 職員の個々の力量の向上とチームワークづくりに努める。  
③ 地域の子育て支援をより一層充実していく。

## 3. 評価項目の達成及び取り組み状況（自己評価）

- ① 教育・保育目標を基盤に、内部研修や外部研修会に参加し、自身の研鑽を積み、またその内容を各職員にフィードバックする中で、各担任の指導力・教育力を高めることができた。  
② モンテッソーリ教育の充実を図る為、職員間の勉強会や研修等に積極的に参加することが出来た。  
③ 職員相互の教育・保育感の構築、共通理解に努めながら、研修に行った職員が、その学んできたことを他の職員全員と共有し、実践出来るような取り組みを行う事が出来た。  
④ 「子育て支援事業」として子育て支援センター（にこにこバンビーニ）を活用し、利用者のニーズや、現状の問題点などを探しながら地域の子育て家庭の援助や支援に努めることができた。

## 4. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ① 今年度も職員間の連携の強化をはかり、共通理解の元一貫性のある教育・保育に取りくみ、各年齢及び一人ひとりの発達段階を踏まえ、より一層子どもが主体的、能動的に学べる教育・保育に取り組む。  
② 引続き地域の子育て家庭からの相談を受けやすい体制づくりに努める。  
③ 子どもの心身のより良い成長発達のために最善を尽くす教育・保育集団であり続けるため、先ずは子どもを良く観ながら、本年も子どもにとってのベストは何かを一番大にして、全職員で教育・保育の見直し、課題をみつけながら創意工夫や改善していくことを惜しまずに教育・保育の実践をしていく。